

わらべうたの一考察

小林つや江

—わらべうとのどあい—

わたしが「わらべうた」にで、い、「わらべうた」のすばらしさに感動したのは、今から四十五年前のことです。当時わたくしが、東京高等師範（現東京教育大学）付属小学校につとめてまもない時でした。

わたしの職歴は、愛知県女子師範学校から、東京府立第六高等女学校へ、そして付属小学校、と教える人はだんだん小さくなつていきました。殊に小学校の低学年が中心でしたから、指導には心をつかいましたが思うようにできず、毎日、なやんでいましたことです。朝から子どもたちは、元気よくいろいろの遊びをたの

しくしていました。その中で、木かげや、運動場の片すみでうたいながらおもしろい遊びをしているのに気がつきました。

一人の子どもが桐の木につかまつてしまがむとあとから五、六人のお友だちがつかまつてしまがみます。リーダーがけんきよく「竹の子一本おくれ」と取りにきます。一列になつた子どもたちは「まだめがでないよ」と歌います。リーダーはそれを聞いてすごすかえります。またリーダーはげんきよく「竹の子二本おくれ」と歌いながらきます。

竹の子の子どもは「まだめがでないよ」とことわります。三回目にリーダーは「竹の子三本おくれ」ときます。「竹の子」の子どもは「もうめがでたよ」と歌います。

リーダーはうしるの子どもから「よしょよしょ」といつて竹の子をぬいていきます。リーダーは一生懸命でぬこうとします。「竹の子」の子どもたちはぬかれまいとして力一ぱい竹の子の親にしがみついています。そのすがたがとてもおもしろくしばらくみていました。ちょうど五月でしたので季節的にもよい遊びだったと思いました。

また片隅の方では、

「茶々つぼ茶つぼ」の手遊びや「ずいづいづいころばし」の指遊びなどたのしく遊んでいました。

すこし大きな子どもは、

「なつも近づく八十八夜、トントン」と調子よく手合せ遊びもしていました。

わたしは毎日学校に行って子どもたちのつきからつきへと発展していく遊びに興味をもつようになりました。

それ以前から「学校唱歌校門を出です」ということをよくきいていました。唱歌の時間に一生懸命教えた歌は、校庭ではきかれませんでした。その中で「茶つみ」はトントンという休符(トン)のリズムにおもしろさを感じたのでしょうか誰でもすぐに歌いながら手合せができるので、よろこんで歌っていました。

学校唱歌も、なにか工夫し、遊びをつけて指導したならばよいの

でないかと気がつき、遊びを考えて指導してみました。歌に合わせて体をうごかしたり、手をたたいたり足拍子をいれたりして指導しているうちに、だんだん教室での生活も前よりは楽しくなってきました。これが「動きのリズム」になり「器楽合奏」に発展していくようになりました。しかしまだまだ考えていかなければならぬ分野がたくさんあると思いました。それではお話を前にもどして、

“どうして「わらべうた」が幼児や子どもたちによろこばれるか”ということについて考えてみましょう。

わらべうたの特徴

- 歌と遊びが一体になっている
- 歌詞は大体一節(物語ふうのもの、数え歌などは例外)である
- 音域はせまく、お話を音域が中心で(一、三度)時に上方に下の方にひろがっている(四度・六度)
- リズムはかんたんで、つきのようであります(58ページ)
- 拍子は二拍子が多く、四拍子はそれについていますが、三拍子はごく少なく六拍子は二拍子型でうたわれているものがみうけられます

二拍子のリズム



四拍子のリズム



三拍子のリズム



陽音階



陰音階（上行）



(下行)

● 旋律は、日本語のアクセントでお話しするようなふしでつくられています。したがって地方によってアクセントが違うのは自然であります。
● 音階は日本音階の陽音階が多く、ついで陰音階がつかわれています。

陽音階は上行・下行は同じ。

陰音階は上行・下行が・印のように違い、日本人の好きな音をしらべてみると「ドレファン」だということです。

このような特徴をもっていますから、歌いながら遊ぶのはだれでもでき、そのうえ、何回歌つてもつかれず、ますます興味がわいて、つぎからつぎへと創作をすることができるので、たのしくいつまでも歌いつづけられると思いま

す。学校唱歌のように正しく歌うことを要求される歌とはちがつて、自由にそくばくななく歌うところに魅力があるのでしょうか。

そこで、みんなの好きなわらべうたをしらべてみました。

—子どもの遊んでいたわらべうた—

・ 手遊び

おせんべいがやけた ずいづいずいころばし
ちやちやつぱちやつぱ 子どもと子ども
せつせつせ 青山土手から

・ 鬼遊び

おにじっこするもの かごめかごめ
ことしのぼたん あぶくたつた かくれんぼ
・ 子とり遊び
たけのこ一本おくれ 花一もんめ

おみやげ三つ あはよしばよ かえるがなくから
「子どもは遊びの天才」であるといふことがいわれていますが、
つぎからつぎへと遊びが発展されていきます。
ドイツの大教育家で幼稚園の創設者のフレーベルはつぎのよう
にいっています。

「唱歌は、体の動き、すなわち遊戯をともなうのが自然であつて、むしろ两者を区別せず一体にすべきだ」といっています。
わらべうたはフレーベルの考え方をそのままうらづけしたもの
だといえましょう。

学校唱歌にも遊びを取り入れて、もつともっと創造性を培うよ
うになればよいのではないでしようか。

・ 輪遊び

ひらいた ひらいた

・ なわとび遊び

—わらべうたの種類—

おじょうさま 大なみこなみ ゆうびんやさん

・ 関所遊び

通りやんせ

- ・ あんたがたどこさ 一番はじめは
- ・ まりつき遊び
- ・ さようならの時

ついで、全国のわらべうたには、どんな種類があるだろうか、

そして地方によってどのようにかわった歌い方をしているかなど

のべましょう。

・遊戯唄

手まりうた………あんたがたどいわ

(東京)

お手玉うた………おさらい

(福井)

羽子つきうた………一人来な

(東京)

なわとびうた………一羽の鳥

(宮城)

かくれんぼ………田にしや田にしや

(岩手)

物まね遊び………らかんさん

(静岡)

輪遊び………ひらいたひらいた

(東京)

関所遊び………通りやんせ

(東京)

子とり遊び………花いちもんめ

(秋田)

鬼遊び………かじめかじめ

(千葉)

物えらび遊び………どいちかつち恵比寿

(青森)

手合せ唄………青山土手から

(福島)

指遊び………すいすいすつころばし

(東京)

きつね遊び………おいくんさん

(愛知)

・子守唄

眠らせ唄………坊やはよい子だ

(東京)

遊ばせ唄………三丁長籠

(岩手)

・天体気象の唄

風……………たこたこあがれ

(埼玉)

雨……………雨降んな

(富崎)

夕焼……………山火事焼ける

(静岡)

月……………うきやとうきや

(東京)

寒気……………おおさむしさむ

(東京)

あられ……………あられやこんこん

(秋田)

雪……………上見れば

(秋田)

・動物・植物の唄

雀……………雀ど雀ど

(秋田)

蛙……………びっきびっき

(山形)

かたつむり………だいぼろつぼる

(茨城)

ほたる………ホーホーほたるこい

(秋田)

とび……………とんびとんび

(秋田)

とんぼ……………やもよやもよ

(山梨)

からす………からす勘三郎

(広島)

かり……………かりわたれ

(東京)

つる……………つる つる

(山口)

つくし……………つくほんじょ

(佐渡)

蓮華草……………げんげつみも

(京都)

桃…………えんやら桃の木

(埼玉)

・歳唄

正月…………お正月がござつた

(東京)

七草…………七草なずな

(愛知)

鳥追い…………その鳥アどこから

(新潟)

左義長…………斎の神

(新潟)

彼岸…………田にしどん田にしどん

(愛知)

盆…………盆ならさん

(愛知)

亥子…………いの子

(広島)

〈注〉 地方名は大体その地方からのわらべうたで今では全国共

通に歌われているのが多いようです。東京地方が十曲、愛知

地方四曲、秋田地方六曲、二曲が岩手・静岡・埼玉・広島・

新潟の地方になっています。他は一曲ずつ。

——「かごめかごめ」について——

「かごめかごめ」は鬼遊びで、千葉地方（現、野田市）の唄で、

人当て鬼の唄であります。関東地方を中心全国に分布していま

すので歌詞も曲節も大同小異であります。

古調はつぎのように歌っていました。

かごめかごめ

かーじのなかの鳥は
いついでやる

夜あけのぼんに

つるつるフッベヨつた

なべのなべのそこぬけ

そこぬいてたアもれ。

「かごめ」というのはもと身をかがめよの意。それが鷗（かも

め）の意に転用し、いつのまにか「籠の中の鳥」とづけたよう

です。

千葉県の野田地方では

かアごめかごめ

かアごの中の鳥は

いつ出やる

夜明けの晩に

鶴と亀とすうべつた

うしろの正面だアれ

と歌っています。

地方によつては方言でいろいろな歌い方に變つてゐるのをしら

べてみました。

「ひつひつでやる」を

かごめかごめ

p

mp

warabéuta

かごめかごめ かこのなかのとりは
いついつでやる よあけのばんに
つるとかめとすべった うしろのしゅめんだあれ

岩手地方……………「いりいりではる」
愛知県三河地方……………「いで出であそぶ」
岡山地方……………「いついつ出あう」
山口地方……………「いつあかつもおりやる」
「夜明けの晩に」夜明けのまだ暗い時分（あけぐれ）の意味で
しょ。

愛知・対馬地方……………「夜明けの頃に、暁かけて、何とか告
ぐる」

長野地方……………「十日の晩に」

新潟地方……………「よあさの晩げつつらつら」

岡山地方……………「いつかの晩に、羽が生えたらペータ

ペタ、足が生えたらチヨーロチヨコ」

山口地方……………「四日の晩に」

徳島地方……………「やみ夜の晩に、杖ついてつぱッた」

「鶴と亀とすうべつた」

秋田地方……………「鶴と亀とすうぼんだ」

東京地方……………「つるつるつうべつたア」

などと地方によつていろいろおもしろしく歌われています。昭和

二十八年二月十日文部省から発行された幼稚園のための指導書
「音楽リズム編」には、日本童謡、下絵既一伴奏でつぎのように

かごめ

日本童謡
下總院一伴奏

J = 96

かごめ かごめ かごのなかのとりは

いついつ でやる よあけの

うちに うしろのしょうめん だ一れ

なっています。

かごめ かごめ

かごのなかのとりは

いついつ でやる

よあけの うちに

うしろのしょうめんだ一れ

「つると亀とすべった」が略されて「よあけのうちに」となって、すぐにうしろの正面だ一れと歌い終っています。

昭和二十八年には日本童謡として文部省が出していますが、そのころ民間から検定唱歌がぞくぞくと編集されて世にでました。その時学校図書で小学校「おんがく」が出版されました二年の本の中につぎのような「かごめ かごめ かごめ」がわらべうたとなつてでています。

「かごめ」（日本童謡）

よあけのうちに

「かごめかごめ」（わらべうた）

よあけのはんに

つるとかめとすべった

と歌詞が違っています。

——かごめかごめの遊び——

このわらべうたは、全国の子どもたちに歌われ遊ばれていることは前にもお話ししましたが、遊びはほとんど同じです。

準備：一列円陣で、一人のリーダーが円の中に入り、目をつむって、しゃがんでいます。

方法：円周の子どもは、互いに手をとつて、歌いながら円周を歩き、「うしろの正面だあれ」の「れ」のときに、円心に向つて、円周の子どもは、一齊にしゃがみます。このとき中のリーダーは、自分のうしろの人が誰であるかあてます。あたつたらその子どもとリーダーとがかわってくりかえしていくども遊びづづけます。

昔の遊びの画を見ますと、三人組で中に一人目をつむつてしまがみ、あと二人は手を合わせてぐるぐるまわっていますので、うしろの正面にきた子どもはすぐわかったと思います。
わらべうたという伝承環境は日本人の生活からしだいに忘れられようとしていますが、しかし地下水のように土地にしみこんでいますので、ちょっとほりさげると、こんこんと泉のようにわきでできます。そして子どもたちにいつまでもいつまでも歌い遊ばれていくと思います。

(日本女子体育大学)

幼児の教育 第七十三巻 第九号

九月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年八月二十五日印刷
昭和四十九年九月一月発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番
◎本誌御購読についての御注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします